

## 例会南都八景1日コース

2025年2月

No.	時間	ポイント	へえ〜?	No.	時間	ポイント	へえ〜?
	10:00	近鉄奈良駅	挨拶 諸注意 コース概要（平城京図） 興福寺、東大寺について	14	12:40	悠久の森	雰囲気を感じる ディアーライン シカが食べないイラクサ イチイガシ、メタセコイア
1	10:05	行基像	688年生まれ〜749年入滅 ボランティアの先駆け 大仏建立の勸進役⇒像の向き 思し召しの柿	15	12:50	東大寺南大門	鎌倉時代の再建 大仏様 重源上人の苦勞 金剛力士像 (29人、69日、3000パーツ)
2	10:10	東向商店街	名前の由来 当時の興福寺の力	16	13:10	東大寺鐘⑤	日本三大名鐘 鳴りやまない鐘 鐘楼は鎌倉時代の大仏様と禅宗様  <b>をく霧の 花いつくしき 名も高し ふりぬる寺の 鐘のひびきに</b>
3	10:20	興福寺	藤原氏の氏寺 平城京を見下ろす場所			念仏堂(地藏堂) 行基堂 俊乗堂	地藏菩薩座像 夜泣き地藏 竹林寺の行基像の模刻 重源上人坐像(国宝) 快慶作「釘打ちの弥陀」
		北円堂	藤原不比等（鎌足第2子）の御廟 興福寺で最古（鎌倉時代の再建）				
4	10:30	マツグミ	半寄生のヤドリギ ヤドリギの生き方 花と実 実の昔の利用法	17	13:30	東大寺大湯屋	風呂敷 浴衣 湯屋の屋根 マルバヤナギ 柳絮 イチョウ 生きている化石（受精） 52段
5	10:35	西金堂跡	光明皇后が母・橘三千代の一周忌に建立 阿修羅像が祀られていた 金春流発祥の地 石碑	18	13:45	東大寺勧進所	公慶堂、阿弥陀堂、八幡殿 公慶上人坐像、五劫思惟阿弥陀如来 僧形八幡神坐像 10月5日開扉、ケイカ
6	10:40	南円堂藤①	西国33番札所9番 冬嗣が父の供養に創建  <b>藤波は 神の言葉の 花なれば 八千代をかけて なおそさかえむ</b>	19	14:00	戒壇院	52段の階位（修行の初め⇒如来） 鑑真 戒壇、受戒ってなに？ センダン
7	10:55	猿沢池月②	749年興福寺の放生池として 采女伝説  <b>のどかなる 波にぞ氷る 猿沢の 池よりとをく 月はすめども</b>	20	14:15	佐保川蛭⑥ （依水園）	吉城川は国道369線(奈良街道)を 横切って暗渠に入り、奈良女子 大学付近で地上に出て、佐保川に 合流 佐保川は春日原始林を源流とし、 若草山北側を回り込んで、奈良市街 を西進し、新大宮付近で南下、 大和郡山市南端で大和川に合流
8	11:10	会津八一歌碑	新潟名誉市民 1881年8月1日生				<b>飛ぶほたる 影をうつして 佐保川の 浅瀬に深き 心をぞしる</b>
9	11:20	菩提院大御堂	三作の石子詰 カラタチ ヒトツバタゴなど				
10	11:30	一之鳥居と 影向の松	日本三大木造鳥居の一つ 鏡板の松のモデル 春日若宮おん祭り 御旅所 ムクロジ	21	14:30	轟橋行人⑦	みとりみ池 <b>うち渡る 人めも絶えず 行く駒の 踏みこそ鳴らせ 轟の橋</b>
11	11:50	三笠山雪③	ふたつのみかさやま <b>三笠山 さして頼べば 白雪の ふかきところを 神やしるらむ</b>	22	14:40	雲井坂雨⑧	
12	12:00	春日野鹿④	明治天皇 イチイガシ <b>春日山 峯の嵐や 寒からむ ふもとの野辺に 鹿そなぬなる</b>		14:50	みとりみ池	<b>村雨の 晴まに越えよ 雲井坂 三笠の山は ほど近くとも まとめ 解散</b>
13	12:10	飛火野	昼食 トイレ				

南都八景：八景の起源は10世紀、北宋で選ばれた湖南省洞庭湖（ドクティン）の瀟湘八景（シャウシャウハツケイ）が始まりである。基本は風景の対象物＋事象・事物の漢字2文字＋2文字である（例えば近江八景では「三井晩鐘・石山秋月・・・」）しかし南都八景はこの基本形ではなく風景の対象物＋事象・事物を3文字＋1文字で表現している（轟橋は例外）室町時代、足利将軍にお供して春日詣でに、僧・蔭涼軒真薬（インリョウケン シンヤク）が風光明媚な風景を日記に記したのが始まりで、我国最初の八景です。